

継続事業評価シート

評価確定日 令和元年 6月20日

平成30年度(2年目)

事業コード	3	事業名	経営課題に対応するためのチーム支援			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	湖東3町商工会	担当者名	米谷 淳	総轄者名	菊地功	施策コード	1	施策名	ライフステージに合わせた経営課題解決のための伴走型個社支援の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

小規模事業者の経営環境が年々厳しくなり、問題も多様化していることから、既存の基礎支援だけでは経営の持続には不足である。経営力向上に向けた取り組みが出来るよう、個々の現在の経営状況を分析し、経営計画を策定することが喫緊の課題となっている。

2. 事業のねらい

3行政1商工会という特殊な合併形式を選んだスケールメリットを最大限発揮するため、地区割りを取り扱ったマンパワーの活用によって個社のライフステージにマッチしたきめ細かい支援サービスを展開する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

現在のチーム支援は経営支援員の記帳指導業務を切り口としたものが主であり、必然的に財務分析や税務に対するチーム支援が多く、今までの経営支援は、経営指導員各自のスキルによるものであり、個別支援からチーム支援に転換するに当たり、職員個々が、チーム支援を意識しながら取り組んだ。今後はチーム支援が円滑に移行できる体制の構築が必要である。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

税務・財務分析中心のチーム支援から、売上増加、販路拡大といった個社の利益に直結する支援の展開を図った。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
経営分析から経営計画の策定に至る中で顕在化する課題について職員の能力をマッチングさせ解決に導く形のチーム支援	巡回強化 情報提供⇒現状分析 H30目標 40% 実績 22.7%(H28.28.3%) 現状分析⇒解決提案 20% 105%(H28.16.9%)	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目						項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	b
--	---

〈評価の理由〉

「うれる陳列」の実現、労使間契約による労使リスク軽減、事業承継に係る相続税対策(2件)、ネットde記帳データを活用した経営分析の経営課題解決についてチーム支援を実施した。当年度目標5件に対して実績5件。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	b
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

税務を切り口とした経営指導員と経営支援員のチーム支援がほとんどであったが、経営指導員と指導員1年目の職員のチーム支援では、支援ノウハウの承継や、OJTも含め多様な側面から実施した。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	b
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

チーム支援であり、人材の縮減には繋がらないが、支援ノウハウの承継や支援スキルの向上、得意分野の掛け合わせによるシナジー効果といった、コスト縮減では計られない効果があった。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
---	---

経営支援員の範疇を超える経営課題については経営指導員とチームを組んで実施している。今後もチーム支援が円滑に移行できる体制の構築が必要である。個社支援とは別に当会が実施している伴走型小規模事業者支援推進事業は職員一眼となって個社の成果創出に取り組んでおり、事業のチーム実施と考える。

3. 課題

3町(五城目町・八郎潟町・井川町)の行政区にあることから、各町に事務所があることから、町を超えたチーム支援が必要である。

4. 今後の対応方針(改善点)

今後は各事務所を超えた、指導員同士のチーム支援により、それぞれの得意分野を活かした伴走型の支援を実施することで、シナジー効果を高めたい。